

産地戦略

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 全域
対象品目 デントコーン

実施期間 令和5～6年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類 該当するものに●を付けてください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

愛知県の酪農経営は、飼料価格の高騰や不安定な供給により経営が厳しい状況である。そのため、地域産粗飼料を求める声が高まり、県内においてもデントコーンの栽培・供給を行い始めた。特に栽培については主に耕畜連携により水田作農家が栽培を行い始めた。その中で、生産コスト低減、省力化が求められているが、栽培経験が浅く知見も少ないため、個々に工夫して栽培を行っているのが実情である。一方、環境に配慮しつつ生産性の高い省力的なデントコーン栽培体系の確立を望む声は最近では聞かれるようになってきており、また、生産意欲・需要の高まりもあり県域で課題解決に取り組む機運も高まっている。

そこで、環境に配慮した生産性の高い省力的なデントコーン栽培体系を確立するために、家畜ふん堆肥を活用して化学肥料の低減を行うとともに、プラスチックを使用しない長期緩効性肥料を用いた追肥作業の省力化による栽培を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	○は種 ●基肥		●追肥		□収穫								
技術名	基肥は速効性の化学肥料（NPK含有） 追肥は速効性の化学肥料（窒素単体）												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	○は種 ●基肥				□収穫							▲堆肥散布	
技術名	基肥は緩効性化学肥料（窒素単体、非プラスチックコーティング） 追肥及び追肥作業なし												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	164	▶ 180	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	2.5	▶ 7	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	2.5	▶ 7	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	2.5	▶ 7	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	窒素、リン酸、カリを含む化学肥料を一定量施用。また、通常使われる緩効性肥料はプラスチック被覆である。	▶ 土壌診断と堆肥の肥効効果を加味した化学肥料施肥量の削減及びプラスチックを使用しない緩効性肥料の活用	化学肥料のうち窒素を低減、リン酸、カリを削減。 緩効性肥料から排出されるプラスチックによる環境負荷の発生がなくなる
省力	基肥施用の他に、時期、生育状況に合わせて追肥を実施する。	▶ 緩効性肥料の活用による追肥作業の削減	追肥にかかる作業時間が削減できる。

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量の低減（％）	100	▶ ～33	N:100→0～100 P:100→0 K:100→0
環境	プラスチック被覆肥料の軽減（％）	100	▶ 0	プラスチック被覆でない肥料の利用
省力	追肥に係る作業量の軽減（％）	100	▶ 0	追肥作業なし
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

環境に配慮したデントコーン栽培マニュアルの作成及び配布により推進を行う

関係者の役割

関係者名	農業普及指導センター			
役割	栽培体系の推進及び技術指導			

その他